

- 問1 北海道は日本最大の米の栽培面積を誇りますが、各都道府県的全耕作面積に占める米の割合を示した統計では、東北地方の多くの県よりも低い数値となっています。このような数値が示される理由として、北海道の農業の特色を踏まえた適切な説明はどれですか。（2023年 福島県公立入試 類似）
1. 冷涼な気候の影響で米の栽培が制限されており、米の生産量が日本で最も少ないため
 2. 小麦やてんさい、酪農などの米以外の作物の生産も盛んであり、農業の多様性が高いため
 3. 東北地方に比べて一戸あたりの経営面積が小さく、米の栽培に特化した効率的な農業が困難なため
 4. 大規模な土地利用は行われているものの、農地の大部分が住宅地や工業団地へ転用されているため
- 問2 札幌市中心部を描いた2万5千分の1の地形図において、JR札幌駅から札幌市役所（地点B）までの図上の長さを測定したところ、ちょうど3cmであった。このとき、これら2地点間の実際の距離として適切なものはどれか。（2021年 茨城県公立入試 類似）
1. 1000m
 2. 500m
 3. 250m
 4. 750m
- 問3 日本の農業に関する統計データにおいて、北海道が他の地方と比較して圧倒的に高い数値を示している二つの項目の組み合わせとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 福岡県公立入試 類似）
1. 農業従事者一人あたりの耕地面積と、一人あたりのトラクター保有台数
 2. 農業従事者一人あたりの農業使用量と、一人あたりのビニールハウスの面積
 3. 単位面積あたりの農業従事者数と、一人あたりの肥料使用量
 4. 総農家数に占める兼業農家の割合と、一人あたりの労働時間
- 問4 日本の人口約1億2700万人に対し農業従事者が約340万人（約2.6%）である統計と、北海道の人口約538万人に対し農業従事者が10.4万人（約1.9%）である統計を比較したとき、北海道の人口に対する農業従事者の割合に関する説明として正しいものはどれですか。（2021年 兵庫県公立入試 類似）
1. 全人口に対する農業従事者の割合は、全国平均を上回っている
 2. 大規模農業が盛んなため、人口に対する農業従事者の割合は全国で最も高い
 3. 全人口に対する農業従事者の割合は、全国平均を下回っている
 4. 人口規模に比例して、農業従事者の割合は全国平均と一致している
- 問5 北海道において、宿泊施設の延べ宿泊者数や温泉地数が全国的に見て極めて多い水準にある理由と、その観光業の特色について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）
1. 首都圏からの距離が近いこと、日帰りの観光客を主なターゲットとした小規模な宿泊施設が特定の都市に集中し、効率的な運営が行われているため。
 2. 火山帯に位置する地理的条件を活かした温泉地が各地にあり、広大な自然景観やパウダースノーなどの地域資源を求めて国内外から多くの観光客が訪れるため。
 3. 歴史的な寺社仏閣が全国で最も多く、それらの伝統的建造物を宿泊施設として再利用する取り組みが全道で進んでいるため。
 4. 冬季の積雪が厳しいため、観光の主力は夏場の避暑や農業体験に限定されており、季節による宿泊者数の変動が極めて大きい構造となっているため。
- 問6 石狩川はかつて、平野部で非常に激しく蛇行して流れており、大雨のたびに深刻な洪水被害をもたらしていました。この問題を解決し、土地を有効活用するために明治時代以降に行われた河川改修工事の内容と、その後の変化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 岡山県公立入試 類似）
1. 川の流れをせき止める巨大な多目的ダムを平野部に連続して建設し、水力発電による電力を周辺のアルミニウム工場に供給するようになった。
 2. 川底を大幅に掘り下げて水深を確保する工事が行われたことで、日本海側から内陸部まで大型の貨物船が航行できる運河として整備された。
 3. 川の蛇行部分を切り離して直線化する工事が行われ、排水が改善されたことで、湿地帯だった土地が広大な水田へと生まれ変わった。
 4. 川の周囲に堤防として大規模な防風林を設置し、冬の北西の季節風による農作物への塩害を防ぐことで、畑作が中心の地域となった。
- 問7 北海道の内陸部に位置する地域の気候の特徴について、ある地点の統計を確認したところ、1月の平均気温がマイナス20度近くまで下がり、年間のすべての月において降水量が100mm未満という非常に少ない数値を示していました。この地域の気候について正しく述べたものはどれですか。（2019年 富山県公立入試 類似）
1. 対馬海流の影響を強く受けるため、冬に雪が多く、年間降水量が2000mmを超える。
 2. 冬の寒さが極めて厳しく、夏は冷涼で、年間を通して降水量が少ない。
 3. 夏に「やませ」と呼ばれる冷たい北東風の影響を強く受け、夏でも霧が発生しやすい。
 4. 季節風の影響で冬の降水量は多いが、夏は太平洋高気圧の影響で乾燥する。
- 問8 北海道東部の太平洋沿岸地域において、夏の気候に大きな影響を与える「海霧」の要因となる、海流の名称と季節風の向きの組み合わせとして正しいものはどれか。（2024年 石川県公立入試 類似）
1. 親潮（千島海流）と北東の季節風
 2. 対馬海流と南東の季節風
 3. 親潮（千島海流）と南東の季節風
 4. 黒潮（日本海流）と北西の季節風
- 問9 十勝平野の畑作では、同じ土地で種類の異なる複数の作物を数年周期で順番に栽培する「輪作」が行われています。このような栽培方法をとる主な目的として、最も適切な理由を説明したものはどれですか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）
1. 特定の作物を続けて作ることで発生する連作障害を防ぎ、土壌の栄養分を維持するため。
 2. 農機の稼働時間を減らすことで、大規模経営における燃料費などのコストを削減するため。
 3. 年ごとの農作物の市場価格の変動に合わせて、最も収益の高い作物だけを育てるため。
 4. 北海道の短い夏において、複数の作物を同時に収穫して出荷作業の効率を上げるため。
- 問10 昭和五十年代と平成十二年ごろの旭川市周辺の状況を比較した資料において、この地域で見られる土地利用の変化として最も適切なものはどれですか。（2016年 京都府公立入試 類似）
1. 発電所などの公共施設が撤去され、その跡地がすべて伝統的な農地に復元された。
 2. 住宅地として利用されていた場所が、大規模な水田や畑へと整備し直された。
 3. 広大な森林地帯が、すべて道路の廃止に伴って未開発の空き地となった。
 4. かつての田畑や空き地が、住宅地や発電所などの施設へと転換された。
- 問11 北海道の東部に位置し、その東側に国後島を望むことができる半島は、独自の生態系が維持されていることからユネスコの世界自然遺産に登録されています。この地域の説明として正しいものはどれですか。（2025年 茨城県公立入試 類似）
1. 下北半島では、日本最北端の地として知られる岬があり、野生のニホンザルの生息地として世界自然遺産に登録されている。
 2. 能登半島では、複雑な海岸線を利用した漁業と、伝統的な農法が一体となった世界自然遺産としての景観が維持されている。
 3. 根室半島では、広大な釧路湿原とつながるラムサール条約登録地として、タンチョウの繁殖地を保護する取り組みが行われている。
 4. 知床半島では、流水がもたらす栄養分を基点とした海と陸の食物連鎖が見られ、ヒグマや希少な猛禽類などの野生動物が保護されている。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 小麦やてんさい、酪農などの米以外の作物の生産も盛んであり、農業の多様性が高いため	北海道は、一戸あたりの経営面積が大きく、大規模な機械化農業が行われているのが特徴です。米の栽培面積そのものは日本最大級ですが、それ以上に、冷涼な気候を活かした小麦、大豆、てんさい、じゃがいもなどの畑作や、広大な土地を利用した酪農も非常に大規模に展開されています。そのため、農業全体で見ると「米以外の作物」の占める割合が大きく、米の単作傾向が強い東北地方の各県に比べて、全耕作面積に対する米の比率は相対的に低くなります。このように、多様な作物を組み合わせた大規模な農業経営が行われていることが北海道の大きな特色です。
問2	答え 4 750m	2万5千分の1の地形図では、実際の距離を25,000分の1に縮小して描いている。そのため、図上の1cmは実寸で25,000cm（250m）に相当する。図上の長さが3cmである場合、250mを3倍した750mが実際の距離となる。単位をセンチメートルからメートルへ換算する計算過程を正確に行うことが重要である。
問3	答え 1 農業従事者一人あたりの耕地面積と、一人あたりのトラクター保有台数	北海道は明治時代以降の開拓の歴史から、農家一戸あたりの経営規模が他の都府県に比べて非常に大きいという特徴があります。広大な農地を少人数で効率よく耕作するために、トラクターなどの大型機械を積極的に導入した結果、一人あたりの耕地面積およびトラクター保有台数の両項目において、全国平均を大きく上回る統計値を示しています。
問4	答え 3 全人口に対する農業従事者の割合は、全国平均を下回っている	北海道は日本最大の食料供給基地であり、広大な耕地面積を有していますが、全人口に対する農業従事者の割合は約1.9%であり、全国平均の約2.6%を下回っています。これは、札幌市などの都市部に人口が集中していることや、1戸あたりの経営面積が大きく、機械化によって少ない人数で効率的な生産が行われていることが要因として挙げられます。
問5	答え 2 火山帯に位置する地理的条件を活かした温泉地が各地にあり、広大な自然景観やパウダースノーなどの地域資源を求めて国内外から多くの観光客が訪れるため。	北海道には活発な火山活動に由来する温泉地が数多く存在します。これに加えて、国立公園に指定されるような広大な自然環境や、冬の質の高い雪といった独自の資源が観光の目玉となっています。これらが大規模な宿泊施設の整備と結びつき、高い延べ宿泊者数を維持する要因となっています。
問6	答え 3 川の蛇行部分を切り離して直線化する工事が行われ、排水が改善されたことで、湿地帯だった土地が広大な水田へと生まれ変わった。	かつての石狩川は全長が現在の約1.4倍もあり、非常に蛇行が激しい川でした。洪水を防ぎ、泥炭地の水を抜いて農地（水田）として利用しやすくするため、蛇行している部分をショートカット（捷水路工事）して流れを直線化する工事が進められました。これにより、水はけが良くなり、石狩平野は北海道を代表する米どころへと発展しました。工事によって切り離された蛇行の跡は、現在も各地に「三日月湖」として残っています。
問7	答え 2 冬の寒さが極めて厳しく、夏は冷涼で、年間を通して降水量が少ない。	北海道の内陸部は、海から遠く離れているために海による気温調節機能が働かず、放射冷却現象などの影響で冬の気温が極端に低くなります。また、周囲を山々に囲まれていることから、海からの湿った空気が入り込みにくく、日本海側などの沿岸部と比較しても年間降水量が少なくなるのが特徴です。
問8	答え 3 親潮（千島海流）と南東の季節風	北海道東部の太平洋沿岸では、夏に南東から湿った空気が流れ込みますが、この空気が千島列島付近から南下してくる寒流の「親潮（千島海流）」の影響を受けることで冷やされ、濃い霧が発生します。この現象は、この地域の夏の気温が上がりにくい一因ともなっており、農作物の生育に影響を与える「冷害」の原因になることもあります。
問9	答え 1 特定の作物を続けて作ることで発生する連作障害を防ぎ、土壌の栄養分を維持するため。	同じ土地で毎年同じ作物を栽培し続けると、土壌の養分が偏ったり、病害虫が発生しやすくなったりする「連作障害」が起こります。十勝平野では、ジャガイモ、てんさい、豆類、小麦などの異なる作物を順番に植え替える「輪作」を行うことで、土壌の肥沃さを保ち、安定した収穫量を確保する工夫がなされています。
問10	答え 4 かつての田畑や空き地が、住宅地や発電所などの施設へと転換された。	昭和から平成にかけて、旭川市のような地方中心都市の周辺部では都市化が進展しました。1970年代（昭和五十年代）にはまだ多く残っていた田畑や空き地が、2000年（平成十二年）ごろには、増加する人口を受け入れるための住宅地や、都市活動を支えるための発電所といった施設へと姿を変えています。これは、土地がより高度で集約的な用途へと転換されたことを示しています。
問11	答え 4 知床半島では、流氷がもたらす栄養分を基点とした海と陸の食物連鎖が見られ、ヒグマや希少な猛禽類などの野生動物が保護されている。	知床半島は、2005年に世界自然遺産に登録されました。この地域は、冬に接岸する流氷がもたらすプランクトンを土台に、魚類、それを食べる海獣や鳥類、さらに陸上のヒグマへとつながる豊かな生態系が、高い密度で維持されている点が評価されています。東側には北方領土の一つである国後島が隣接しています。